

事業名	さの新春うんめえもんまつり開催支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1．基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	観光推進課		さの新春うんめえもんまつり開催支援事業		款	7	新規or継続	継続事業
	係	観光事業係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	211	名称	根拠法令、条例等	目	4	義務or任意	任意の事業	
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	H28	実施方法	直営
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり			終了年度		事業分類	支援事業
	施策	1	ひとを集める観光戦略の展開						

2．事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	さの新春うんめえもんまつり実行委員会に対し、運営費の一部を補助することにより、まつりを安定的・発展的に実施してもらう。 これにより市の魅力を広くPRし、観光誘客を促進するとともに、まちなかの活性化を図る。 実行委員会事務局⇒佐野商工会議所経営支援課 市関係課⇒観光推進課、産業政策課、広報ブランド推進課
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	本市の魅力を知ってもらい、来訪、宿泊してもらう。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		佐野市観光協会ホームページアクセス数	千件	300	250	180	185	190
		来場者数	人	20,000	10,000	20,000	20,000	20,000

（3）目標値

3．前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	令和6年1月7日に「第8回さの新春うんめえもんまつり」が開催された。 市の活動 実行委員会への参画、補助金の支出、当日スタッフとして従事	活動指標	単位	R3	R4	R5
		実行委員会開催回数	回	0	3	4
		まつり開催回数	回	0	1	1
		事業費計	千円	0	200	200
		一般財源	千円		200	200
		特定財源（国・県・他）	千円			
		（うち受益者負担）	千円			

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	まつりを開催したことにより本市の魅力を知ってもらうことでHPアクセス数及び来場者増加につながった。	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
		佐野市観光協会ホームページアクセス数	千件	203	165	219	値が大きいほど良い	効果が上がった
		来場者数	人	0.0	10,000	20,000	値が大きいほど良い	効果が上がった

（4）事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

（5）費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）		費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断	効果		
効果 (R5とR4の指標値増減)	効果が上がった指標数	2指標		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	0指標				
	効果が下がった指標数	0指標				
	指標全体	効果が上がった		費用は下がった	費用の増減無し	費用が増加した

費用	費用は下がった		
	費用の増減無し	○	
	費用が増加した		

4．次年度に向けた検討

（1）令和５年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

継続的なイベントの実施

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和６年度及び令和７年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☒ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 ボランティアスタッフ等を起用し、市民と一体となった祭り運営を行うことにより、成果向上及びコスト削減につながる。
---	---

事業名	スプリングフラワーフェスティバル開催支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	観光推進課		スプリングフラワーフェスティバル開催支援事業		款	7	新規or継続	継続事業
	係	観光事業係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	211	名称	根拠法令、条例等	目	4	義務or任意	任意の事業	
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	H1	実施方法	直営
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり			終了年度		事業分類	支援事業
	施策	1	ひとを集める観光戦略の展開						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	佐野スプリングフラワーフェスティバル実行委員会を設置、同委員会への交付金を支出する。同委員会がイベントを主催する。 【イベント概要】日本有数の規模でかたくりの花が群生する「万葉自然公園かたくりの里」での「かたくりの花まつり」をメインに春の花をテーマにしたスプリングフラワーフェスティバルを開催することにより、本市の美しい自然を市内外に紹介し、誘客を図る。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	多くの市民・観光客に佐野の春の花をたのしんでもらう。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		かたくりの里駐車台数	台	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000

（3）目標値

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	佐野スプリングフラワーフェスティバル実行委員会へ交付金支出 (1,900,000円) (実行委員会の活動) 佐野スプリングフラワーフェスティバル実行委員会開催 佐野スプリングフラワーフェスティバル 2 0 2 4 安全対策のため警備員を設置、佐野市観光協会による駐車料金の徴収	活動指標	単位	R3	R4	R5
		会議・打ち合わせ回数	回	1	1	1
		広報・宣伝回数	回	0	11	10
		準備回数	回	5	12	12
		事業費計	千円	1,900	1,900	1,900
		一般財源	千円	1,900	1,900	0
		特定財源（国・県・他）	千円			1,900
		(うち受益者負担)	千円			

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	R4と比較して駐車台数は増加したが、R3と比較すると以前減少傾向にある。	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
		かたくりの里駐車台数	台	2,080	1,136	1,361	値が大きいほど良い	効果が上がった

（4）事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

（5）費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）		費用は下がった	※ 1 0 万円以上の増減により判断	効果		
効果 (R5とR4の指標値増減)	効果が上がった指標数	1指標		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	0指標		○		
	効果が下がった指標数	0指標				
指標全体		効果が上がった		費用	費用は下がった	費用の増減無し
					費用が増加した	

4. 次年度に向けた検討

（1）令和５年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

かたくりの花の開花期間が年々短くなってきており、花の数も減少している。また、当時は、かたくりの花を観光できる場所がなかったことから多くの来場者があったが、近年はそうした場所も増えてきている。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和６年度及び令和７年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☒ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
	イベントの効果的な周知。 かたくりの群生地環境整備。

事業名	観光事業者との連携強化事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約	3-⑤	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1．基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	観光推進課		観光事業者との連携強化事業		款	7	新規or継続	継続事業
	係	観光事業係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	211	名称	根拠法令、条例等	事業期間	目	4	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり			開始年度	H19	実施方法	一部委託
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり			終了年度		事業分類	その他市民に対する事業
	施策	1	ひとを集める観光戦略の展開						

2．事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	観光誘客における観光事業者との連携において、佐野プレミアム・アウトレット内での観光PR事業を展開することにより、市内各所の観光スポットへの誘客及び回遊性を高める。また、観光ツアー造成の働きかけを行う。（一社）佐野市観光協会に業務委託。
------	---

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	本市の魅力を広くPRするため、近隣自治体を含めた観光関係団体と連携したPRイベントや各種ツアーの企画、観光スポットのライティングを展開することで、観光誘客の増加を図る。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		観光協会企画ツアー利用者総数	人	600	100	110	120	130
		さのあかり来場者総数	人	0.0	0.0	5000.0	8000.0	10000.0

（3）目標値

3．前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R５年度に行った主な活動内容)	・5月、6月、9月、10月、11月、12月、1月、2月、3月に佐野プレミアム・アウトレットで「さのまるっとマルシェ」を開催した。名産品や農産物等の販売及びPR冊子の配布を行った。 ・市内観光スポット２箇所でライティングを実施した。 出流原弁天池・磯山弁財天会場（11月中の計6日間） 唐沢山城跡・唐澤山神社会場（11月及び12月の計4日間）	活動指標	単位	R3	R4	R5
		観光PR回数	回	4	7	9
		打ち合わせ回数	回	8	10	10
		ライティングを実施した観光スポット数	箇所	0	0	2
		事業費計	千円	300	300	5,261
		一般財源	千円	300	1	0
		特定財源（国・県・他）	千円		299	5,261
		（うち受益者負担）	千円			

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	・都内小学校の修学旅行やパキスタン私立学校経営者教育視察など受注型ツアーが増えたことにより、ツアー利用者が増えた。 ・初めての試みである観光スポットライティング事業により、新たな観光誘客へと繋がった。	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
		観光協会企画ツアー利用者総数	人	84	64	173	値が大きいほど良い	効果が上がった
		さのあかり来場者総数	人	0.0	0.0	7,994.0	値が大きいほど良い	効果が上がった

（4）事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

（5）費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）		費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断	効果		
効果 (R5とR4の指標値増減)	効果が上がった指標数	2指標		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	0指標				
	効果が下がった指標数	0指標				
	指標全体	効果が上がった				
費用	費用は下がった					
	費用の増減無し	○				
	費用が増加した					

4．次年度に向けた検討

（1）令和５年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

・出展者が固定化しているため、近隣自治体と連携した広域的なPRを実施する必要がある。 ・プロポーザル方式の業務委託による事業者選定を行ったため、業務時間が増加した。 ・さのあかりにおける来場者がライティング会場以外への回遊及び市内宿泊に繋がるような方策の検討が必要。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和６年度及び令和７年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☒ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☒ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 実行委員会を設立し、事務局を他団体が担う。
--	-----------------------------------

事業名	佐野市観光協会支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs 該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	観光文化スポーツ部		予算中事業名	予算 科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	観光推進課		佐野市観光協会支援事業		款	7	新規or継続	継続事業
	係	観光推進係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	211	名称	根拠法令、条例等		目	4	義務or任意	任意の事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業 期間	開始年度	H16	実施方法	直営
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり			終了年度		事業分類	支援事業
	施策	1	ひとを集める観光戦略の展開						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	佐野市の観光誘客の向上を目指し、観光資源の発掘、観光PR事業を積極的に展開し、また、観光物産会館を中心とした特産商品の開発等の事業展開を積極的に図ることを目的とする佐野市観光協会への補助金交付事業。
------	---

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	佐野市をPRすることにより本市の魅力を知ってもらい、来訪、宿泊してもらおう。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		市の観光客入込数	人	10,000	8,500	8,600	8,700	8,800
		市の観光宿泊数	人	50,000	60,000	61,000	62,000	63,000

（3）目標値

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	【市の実績】 観光協会が実施する事業への協力支援 【協会の実績】 観光PR、観光誘客事業、観光事業者等との連携、観光イベント開催等 ※佐野市観光物産会館・みかも山観光物産会館指定管理	活動指標	単位	R3	R4	R5
		Webサイトアクセス数	回/日	1,226	1,135	1,396
		X(Twitter)フォロワー数	人	3,861	4,485	4,986
		観光イベント開催回数	回	2	2	4
		事業費計	千円	4,350	4,350	4,350
		一般財源	千円	4,350	4,350	4,350
		特定財源（国・県・他）	千円			
		（うち受益者負担）	千円			

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	民間目線によるマーケティングマネジメントの導入のほか、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことも影響し、観光入込客数及び宿泊者数ともに増加となった。	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
		市の観光客入込数	人	6,503	6,429	7,134	値が大きいほど良い	効果が上がった
		市の観光宿泊数	人	40,914	56,943	64,290	値が大きいほど良い	効果が上がった

（4）事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

（5）費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）		費用の増減無し	※10万円以上の増減により判断	効果		
効果 (R5とR4の指標値増減)	効果が上がった指標数	2指標		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	0指標		費用は下がった 費用の増減無し 費用が増加した		
	効果が下がった指標数	0指標				
	指標全体	効果が上がった				

4. 次年度に向けた検討

（1）令和５年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

社会における価値観やライフスタイルの多様化などにより、観光の形態も団体型から個人型が主流になってきており、多様な価値観やニーズに対応した着地型観光商品を造成することで地域活性化につなげる取組など、それぞれのニーズに合った観光サービスの提供が求められている。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和６年度及び令和７年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☐ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明

事業名	栃木県アンテナショップ協議会参画事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs 該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	観光文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	観光推進課		栃木県アンテナショップ協議会		款	7	新規or継続	継続事業
	係	観光推進係		参画事業		項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	211	名称	根拠法令、条例等		目	4	義務or任意	任意の事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	H24	実施方法	直営
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり			終了年度		事業分類	参画事業
	施策	1	ひとを集める観光戦略の展開						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	栃木県アンテナショップ協議会会員として、負担金を支出し、会議やイベントに参加し栃木県アンテナショップの内容充実、さらなる充実を図る。なお、栃木県アンテナショップ協議会は県及び県内全市町村で構成され、栃木県の知名度アップ、ブランド価値向上、地域産業振興、誘客促進を図ることを目的に組織されている。
------	---

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	国内に在住する人に本市の魅力を知ってもらい、誘客につなげる。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		市の観光入込客数	千人	10,000	8,500	8,600	8,700	8,800

（3）目標値

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R5年度に 行った主な活 動内容)	①負担金の支出 ②運営会議（3回）、総会（2回）、意見交換会 ③イベントの実施	活動指標	単位	R3	R4	R5
		会議への出席回数	回	8	7	6
		事業費計	千円	736	923	804
		一般財源	千円	736	923	804
		特定財源（国・県・他）	千円			
		（うち受益者負担）	千円			

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことも影響し、観光入込客数及び宿泊者数ともに増加となった。 アンテナショップにおける佐野市に関する商品の売上額が令和4年度に比べ増額となった。	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
		市の観光入込客数	千人	6,503	6,429	7,134	値が大きいほど良い	効果が上がった

（4）事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

（5）費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）		費用は下がった	※ 1 0 万円以上の増減により判断			効果		
効果 (R5とR4の指標値増減)	効果が上がった指標数	1指標				効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	0指標				費用は下がった 費用の増減無し 費用が増加した	○	
	効果が下がった指標数	0指標						
	指標全体	効果が上がった						

4. 次年度に向けた検討

（1）令和 5 年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

日本の一大観光名所となる東京スカイツリーにアンテナショップを設置することは、佐野市においても誘客促進の大きな効果が見込める。アンテナショップと連携したイベント等開催の検討が必要である。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和 6 年度及び令和 7 年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☒ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
	アンテナショップと連携したイベント等開催の検討。

事業名	どまんなかフェスタ佐野開催支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs 該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1．基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算 科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	観光推進課		どまんなかフェスタ佐野開催支援事業		款	7	新規or継続	継続事業
	係	観光事業係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	211	名称	根拠法令、条例等	事業 期間	目	4	義務or任意	任意の事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり			開始年度	H20	実施方法	直営
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり			終了年度		事業分類	支援事業
	施策	1	ひとを集める観光戦略の展開						

2．事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	どまんなかフェスタ佐野実行委員会に交付金を交付し、どまんなかフェスタ佐野の開催を支援している。 ※どまんなかフェスタ佐野実行委員会は、どまんなかフェスタ佐野開催のために関係団体、参加団体等により構成された組織。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	各団体活動の周知・活性化を促し、市民や観光客など来場されたお客様には地元の特産品・伝統文化に触れていただく機会とする。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		来場者数	人	46,000	10,000	10,000	10,000	10,000
		佐野市観光協会ホームページアクセス数	千人	300.0	250.0	180.0	185.0	190.0

（3）目標値

3．前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	どまんなかフェスタ佐野実行委員会の活動 ・実行委員会の開催（令和5年7月10日） ・どまんなかフェスタ佐野2023の開催（令和5年11月5日）	活動指標	単位	R3	R4	R5
		会議開催回数	回	1	1	1
		実行委員数	人	17	15	17
		広報チラシ配布数	枚	0	46,000	46,000
		事業費計	千円	0	3,000	3,600
		一般財源	千円	0	3,000	0
		特定財源（国・県・他）	千円			3,600
		（うち受益者負担）	千円			

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	新型コロナウイルス感染症の分類が5類に引き下げられたことに伴い、ステージイベントも再開し、来場者も増加した。	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
		来場者数	人	0	20,000	25,000	値が大きいほど良い	効果が上がった
		佐野市観光協会ホームページアクセス数	千人	203.0	165.0	219.0	値が大きいほど良い	効果が上がった

（4）事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

（5）費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）		費用は下がった	※10万円以上の増減により判断	効果		
効果 (R5とR4の指標値増減)	効果が上がった指標数	2指標		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	0指標		費用は下がった 費用の増減無し 費用が増加した		
	効果が下がった指標数	0指標				
	指標全体	効果が上がった				

4．次年度に向けた検討

（1）令和５年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

設営費等の高騰に伴い、出展者による負担金の増額を検討する必要がある。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和６年度及び令和７年度の取組

☒ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☒ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
	市外県外からの観光誘客に寄与しているかの検証。

事業名	「本物の出会い 栃木」観光プロモーション参画事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs 該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	観光推進課		「本物の出会い 栃木」観光プロモーション参画事業		款	7	新規or継続	継続事業
	係	観光事業係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	211	名称	根拠法令、条例等	目	4	義務or任意	任意の事業	
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	H10	実施方法	直営
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり		終了年度		事業分類	参画事業	
	施策	1	ひとを集める観光戦略の展開						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	「本物の出会い栃木」観光キャンペーン推進協議会に会員として負担金を支出し、協議会主催の会議、イベント、キャンペーンに参加している。 ※「本物の出会い栃木」観光キャンペーン推進協議会とは、栃木県への観光誘客の増大と定着及び観光産業の振興を図ることを目的として、県、市町村、観光関連団体等で構成している団体。平成26年より「やすらぎの栃木路」共同宣伝協議会から「本物の出会い栃木」観光キャンペーン推進協議会に名称変更した。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	関東地方及び近県住民（1都6県+福島県+新潟県）を対象として栃木県への観光客の増加を図り、佐野市への観光誘客に結びつける。
-------------------------	---

(3) 目標値

効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
市の観光客入込数	千人	10,000	8,500	8,600	8,700	8,800

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	(市の活動) 負担金支出、会議への出席、広報宣伝物の作成協力、観光キャンペーン参加 (協議会の活動) 会議の開催、パンフレット作成、広報宣伝、イベント開催
--------------------------	--

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動指標	単位	R3	R4	R5
会議への出席回数	回	5	5	5
イベント等参加回数	回	0	7	6
事業費計	千円	250	250	100
一般財源	千円	250	250	100
特定財源（国・県・他）	千円			
(うち受益者負担)	千円			

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	観光入込客数が増加した。
------------------	--------------

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
市の観光客入込数	千人	6,503	6,429	7,134	値が大きいほど良い	効果が上がった

↓選択して下さい

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用は下がった
効果（R5とR4の指標値増減）	効果が上がった指標数 1指標
	効果は変わらない指標数 0指標
	効果が下がった指標数 0指標
	指標全体 効果が上がった

※10万円以上の増減により判断

効果		
効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
費用は下がった	○	
費用の増減無し		
費用が増加した		

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

広域連携でのキャンペーンをより多くすることにより、戦略的に事業を推進することで成果の向上が見込まれる。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☒ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 観光誘客のターゲットや方針を同じくする自治体と連携し事業を実施する。
---	--

事業名	観光キャラバン事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約	3-⑤	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰返し
	課	観光推進課		観光キャラバン事業		款	7	新規or継続	継続事業
	係	観光事業係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	211	名称	根拠法令、条例等		目	4	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	H10	実施方法	一部委託
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり			終了年度		事業分類	その他市民に対する事業
	施策	1	ひとを集める観光戦略の展開						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	観光協会や民間企業等と協力して観光キャラバン隊を編成し、観光誘客向上のため、市外でのセールスを行う。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	全国の人々を対象として本市への観光誘客を図る。
-------------------------	-------------------------

(3) 目標値

効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
佐野市観光協会ホームページアクセス件数	事業	400	400	450	450	450
観光客入込数	千人	8400.0	8500.0	8600.0	8700.0	8800.0

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	7/14 両毛地域・東武鉄道観光誘客連絡会議 新越谷キャン ペーン 8/15 みどり市連携 草木湖まつり 10/21 「本物の出会い 栃木」とちぎ誕生 1 5 0 祭 2/7～13 佐野市観光PRin東京都庁 ほか 合計 3 0 日間実施
--------------------------	--

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動指標	単位	R3	R4	R5
観光キャラバン回数	回	3	26	30
事業費計	千円	200	200	200
一般財源	千円	200	200	200
特定財源（国・県・他）	千円			
（うち受益者負担）	千円			

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	観光キャラバンを通して、本市の魅力を知ってもらい、来訪、宿泊につながった。
------------------	---------------------------------------

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
佐野市観光協会ホームページアクセス件数	千件	203	165	219	値が大きいか良い	効果が上がった
観光客入込数	千人	6,503	6,429	7,134	値が大きいか良い	効果が上がった

↓選択して下さい

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用の増減無し
効果（R5とR4の指標値増減）	効果が上がった指標数 2指標
	効果は変わらない指標数 0指標
	効果が下がった指標数 0指標
	指標全体 効果が上がった

※ 1 0 万円以上の増減により判断

効果		
効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
費用は下がった		
費用の増減無し	○	
費用が増加した		

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和 5 年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

夏の時期に何をPRしていくかの検討。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和 6 年度及び令和 7 年度の取組

取組説明	
☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☒ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	対象に合致した新規キャンペーンの実施及びPR方法の検討。

仕事の振り返りシート（令和5年度実施分）

作成・更新日 2024年8月8日

事業名	関東菊花競技大会開催支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs 該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	観光推進課		関東菊花競技大会開催支援事業		款	7	新規or継続	継続事業
	係	観光事業係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	211	名称	根拠法令、条例等		目	4	義務or任意	任意の事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	S4	実施方法	直営
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり		終了年度		事業分類	支援事業	
	施策	1	ひとを集める観光戦略の展開						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	関東菊花競技大会に補助金を支出している。また、関東菊花競技大会の開催支援（後援・協賛依頼、賞状下付申請・版徴求、チラシ・ポスターの配布、報告書作成、表彰式の開催支援）を行っている。 ※関東菊花競技大会は、晃陽会・佐野市主催の菊の競技大会であり、昭和4年の第1回大会以来一度も欠かすことなく開催されてきた歴史ある大会である。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	菊愛好家、市民、観光客に対して社会情操教育と文化の向上、菊花栽培の鑑賞と普及発展を促し、観光誘客を図る。
-------------------------	--

(3) 目標値

効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
菊花出品数	品	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200
来場者数	人	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	(市の活動)・後援、協賛依頼（9月～10月）・賞状下付申請・版徴求（9月～11月）・表彰式実施支援 ※チラシ・ポスターの配布 (関東菊花競技大会の活動)・第95回関東菊花競技大会の実施（令和5年11月1日～23日 春日岡山惣宗寺境内にて）・表彰式の実施（11月23日、佐野中央公民館にて）
--------------------------	--

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動指標	単位	R3	R4	R5
後援依頼事業者・団体数	件	9	9	9
賞状依頼事業者・団体数	件	25	25	25
事業費計	千円	1,000	1,000	1,000
一般財源	千円	1,000	1,000	1,000
特定財源（国・県・他）	千円			
(うち受益者負担)	千円			

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	菊花出品数や来場者数は従来と同数程度だが、菊愛好家の高齢化により、年々減少傾向にある。
------------------	---

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
菊花出品数	品	1,200	1,200	1,100	値が大きいくらい良い	効果が下がった
来場者数	人	29,000	29,000	29,000	値が大きいくらい良い	効果は変わらない

↓選択して下さい

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用の増減無し
効果（R5とR4の指標値増減）	効果が上がった指標数 0指標
	効果は変わらない指標数 1指標
	効果が下がった指標数 1指標
	指標全体 効果が下がった

※10万円以上の増減により判断

効果		
効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
費用は下がった		
費用の増減無し		○
費用が増加した		

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

菊愛好家の高齢化により、菊花の出品数が減少傾向にある。また、新規の菊愛好家の参加や、若年層への周知が課題であると考える。
--

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

取組説明
☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☐ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

事業名	佐野コミュニケーションセンター運営事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰返し
	課	観光推進課		佐野コミュニケーションセンター運営事業		款	7	新規or継続	継続事業
	係	観光事業係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	211	名称	根拠法令、条例等		目	6	義務or任意	任意の事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	H14	実施方法	一部委託
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり			終了年度		事業分類	施設維持管理事業
	施策	1	ひとを集める観光戦略の展開						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	佐野コミュニケーションセンター管理・管理運営協議会の事務（施設運営・パンフレット設置/ポスター掲示/商品展示/ホームページ登録） 佐野ナビゲーションフェアの開催。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	佐野プレミアム・アウトレット来場者、佐野コミュニケーションセンター来場者に佐野市のPRをし、街中へ回遊してもらう。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		ホームページアクセス件数	件	10,000	10,000	6,000	6,000	6,000
		パンフレット設置数	枚	30,000	20,000	25,000	25,000	25,000

(3) 目標値

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	・施設運営（パンフレット設置、ポスター掲示、商品展示、ホームページ登録）	活動指標	単位	R3	R4	R5
		事業者利用件数	件	86	88	95
		キャンペーン開催件数	回	0	2	0
		事業費計	千円	6,004	6,380	6,441
		一般財源	千円	6,004	6,380	6,441
		特定財源（国・県・他）	千円	0	0	0
		（うち受益者負担）	千円	0	0	0

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	パンフレット設置数は増加したが、ホームページアクセス数はR3と比較して1／3程度の数、R4と比較しても減少している。	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
		ホームページアクセス件数（独自）	件	13,179	5,586	4,896	値が大きいほど良い	効果が下がった
		パンフレット設置数	枚	18,790	23,418	24,046	値が大きいほど良い	効果が上がった

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用の増減無し	※10万円以上の増減により判断			効果		
効果（R5とR4の指標値増減）	効果が上がった指標数	1指標	費用	費用は下がった	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	0指標		費用の増減無し	○		
	効果が下がった指標数	1指標		費用が増加した			
	指標全体	効果は変わらない					

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

R4で開催していたキャンペーンが行えなかったことで、佐野市のPRと市内回遊へ促すという目的をやや達成できなかった。センター内での商品販売や、新たな佐野市のPRや市内回遊の方法を見直すことで、費用対効果が向上すると考える。
--

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☒ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 店内陳列の見直し。 市内周遊につなげる新たな展開。
--	--

仕事の振り返りシート（令和5年度実施分）

作成・更新日 2024年8月8日

事業名	両毛地域・東武鉄道観光誘客連絡会議参画事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs 該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	観光推進課		両毛地域・東武鉄道観光誘客連絡会議参画事業		款	7	新規or継続	継続事業
	係	観光事業係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	211	名称	根拠法令、条例等		目	4	義務or任意	任意の事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	H17	実施方法	直営
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり			終了年度		事業分類	参画事業
	施策	1	ひとを集める観光戦略の展開						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	両毛地域・東武鉄道観光誘客連絡会議へ会員として負担金支出。総会や担当者会議への参加を通して各種観光誘客事業を実施。 ＊両毛地域・東武鉄道観光誘客連絡会議とは両毛地域への観光誘客促進を目的として、東武鉄道、両毛7市（佐野市、足利市、館林市、太田市、伊勢崎市、桐生市、みどり市）により構成している団体である。
------	---

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	東武鉄道利用者、沿線住民を対象とし、両毛地域及び佐野市のPR強化。東武鉄道利用観光客の増。
-------------------------	---

(3) 目標値

効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
冊子作成部数	部	88,000	85,000	85,000	85,000	85,000
イベント時パンフ配布数（佐野市分）	枚	3,500	1,500	2,500	2,500	2,500

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	(1) ふらっと両毛パンフレット・ポスターの作成配布（秋冬版、春夏版） (2) 観光キャンペーン開催（池袋駅、北千住駅、新越谷駅） (3) 観光ポスターの駅・車両広告掲出 (4) 両毛地域・東武鉄道観光誘客連絡会議の開催 (5) 誘客施策ワーキンググループ会議の開催
--------------------------	---

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動指標	単位	R3	R4	R5
会議回数	回	4	5	5
イベント回数	回	0	3	3
冊子等校正	回	30	30	30
事業費計	千円	800	800	800
一般財源	千円	800	800	800
特定財源（国・県・他）	千円			
（うち受益者負担）	千円			

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	昨年度と比較して、冊子作成部数は変化がなかったが、パンフレット配布数は増加した。両毛地域及び佐野市のPR強化がなされている。
------------------	--

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
冊子作成部数	部	85,000	85,000	85,000	値が大きいほど良い	効果は変わらない
イベント時パンフ配布数（佐野市分）	枚	0.0	1,250.0	2,500.0	値が大きいほど良い	効果が上がった

↓選択して下さい

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用の増減無し
効果（R5とR4の指標値増減）	効果が上がった指標数 1指標
	効果は変わらない指標数 1指標
	効果が下がった指標数 0指標
	指標全体 効果が上がった

※ 10万円以上の増減により判断

効果			
	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
費用	費用は下がった		
	費用の増減無し	○	
	費用が増加した		

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

イベント実施の回数を増加を検討すべき。また、キャンペーンの地域と方法を見直し、より良いPRを行うことで両毛地域及び佐野市への誘客に繋がる。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

取組説明
☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☐ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和5年度実施分）

作成・更新日 2024年8月8日

事業名	例幣使道軸共同開発協議会参画事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs 該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	観光推進課		例幣使道軸共同開発協議会参画事業		款	7	新規or継続	継続事業
	係	観光事業係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	211	名称	根拠法令、条例等		目	4	義務or任意	任意の事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	H22	実施方法	直営
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり		終了年度		事業分類	参画事業	
	施策	1	ひとを集める観光戦略の展開						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	例幣使道軸共同開発協議会に参画し、足利市・栃木市・鹿沼市及び各観光協会と共同で、例幣使街道の観光PRを行い観光誘客向上を図る。
------	---

(2) 目的

目的 (本事業によって成し 遂げたい状態)	佐野市への観光客誘客の増加を図る。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		観光客入込数	千人	10,000	8,500	8,600	8,700	8,800

(3) 目標値

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R5年度に 行った主な活 動内容)	(市の活動) ・総会への参加 ・担当者会議への参加 ・御宿場巡り実施	活動指標	単位	R3	R4	R5
		イベント開催数	回	0	1	1
		事業費計	千円	200	200	200
		一般財源	千円	200	200	200
		特定財源（国・県・他）	千円			
		（うち受益者負担）	千円			

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び 定性)	イベント開催数は昨年と同回数だが、観光客入込数は増加した。	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
		観光客入込数	千人	6,503	6,429	7,134	値が大きいほど良い	効果が上がった

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）		費用の増減無し	※ 10万円以上の増減により判断	効果		
効果 (R5とR4の 指標値増減)	効果が上がった指標数	1指標		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	0指標				
	効果が下がった指標数	0指標				
	指標全体	効果が上がった				

費用	費用は下がった		
	費用の増減無し	○	
	費用が増加した		

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

令和5年度の協議会にて、解散するか否かの可否をとった。佐野市としては予算を既に計上しているため、令和6年度での解散が妥当であると回答した。これからも協議会に参画することが妥当であるか検討する事が、一番の課題である。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

☒ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☐ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 対象に合致したイベントやPRの実施。
--	--------------------------------

事業名	観光PR車維持管理事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs 該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1．基本情報

担当組織	部	観光文化スポーツ部		予算中事業名	予算 科目	会計	一般	事業計画	単年度繰返し
	課	観光推進課				款	7	新規or継続	継続事業
	係	観光推進係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	211	名称	根拠法令、条例等		目	4	義務or任意	任意の事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業 期間	開始年度	H22	実施方法	直営
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり			終了年度		事業分類	施設維持管理事業
	施策	1	ひとを集める観光戦略の展開						

2．事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（１）事業概要

事業概要	観光PR活動の一環として、広告を掲載した観光PR車を、市内外のイベント等で活用を図る。また、適切な車両の維持管理を行う。
------	--

（２）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	佐野市の魅力をPRすることで、本市に訪れてもらう、宿泊してもらう。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		市の観光入込客数	千人	10,000	8,500	8,600	8,700	8,800

（３）目標値

3．前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（１）活動実績

活動実績 (R５年度に行った主な活動内容)	市主催の各種イベントの備品等を運搬するため活用した※さの秀郷まつり、どまんなかフェスタなど	活動指標	単位	R3	R4	R5
		イベント等使用実績	回	1	3	2
		関東地方と近県の人口	千人	47,550	47,478	47,420
		(人口推計10/ 1 住基台帳)				
		事業費計	千円	154	154	154
		一般財源	千円	139	139	139
		特定財源（国・県・他）	千円	15	15	15
		(うち受益者負担)	千円			

（２）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（３）活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	市の観光入込客数が増加していることから、観光PR車でPR効果が増加していると考えられる。	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
		市の観光入込客数	千人	6,503	6,429	7,134	値が大きいほど良い	効果が上がった

（４）事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

（５）費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）		費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断	効果		
効果 (R5とR4の指標値増減)	効果が上がった指標数	1指標		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	0指標				
	効果が下がった指標数	0指標				
	指標全体	効果が上がった				

費用	費用は下がった		
	費用の増減無し	○	
	費用が増加した		

4．次年度に向けた検討

（１）令和５年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

市主催の各種イベント時以外にも積極的に活用する。

（２）上記反省点及び課題を踏まえた、令和６年度及び令和７年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☐ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明

事業名	観光パンフレット作成事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs 該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1．基本情報

担当組織	部	観光文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	観光推進課		観光パンフレット作成事業		款	7	新規or継続	継続事業
	係	観光推進係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	211	名称	根拠法令、条例等	目	4	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	H16	実施方法	一部委託
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり			終了年度		事業分類	その他内部事務事業
	施策	1	ひとを集める観光戦略の展開						

2．事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（１）事業概要

事業概要	観光パンフレットの作成及び配布
------	-----------------

（２）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	観光客に佐野市に訪れてう、宿泊してもらうため観光スポット知ってもらう。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		パンフレット配布部数	部	29,550	15,000	15,000	15,000	15,000
		市の観光入込客数	千人	10,000	8,500	8,600	8,700	8,800
		市の観光宿泊客数	人	50,000	60,000	61,000	62,000	63,000

3．前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（１）活動実績

活動実績 (R５年度に行った主な活動内容)	観光パンフレットの作成 (事業費の内訳) 佐野まるごと観光ガイド（マップ付） 6,500部	活動指標	単位	R3	R4	R5
		観光パンフレット作成部数	部	18,000	4,700	6,500
		事業費計	千円	954	641	923
		一般財源	千円	954	641	923
		特定財源（国・県・他）	千円			
		(うち受益者負担)	千円			

（３）活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	パンフレットを配布することで、佐野市の魅力を積極的に周知し市の観光入込客数増加につながった。	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
		パンフレット配布部数	部	13,000	13,100	6,500	値が大きいほど良い	効果が下がった
		市の観光入込客数	千人	6,503	6,429	7,134	値が大きいほど良い	効果が上がった
		市の観光宿泊客数	人	40,914	56,943	64,290	値が大きいほど良い	効果が上がった

（５）費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）		費用が増加した	※ 1 0 万円以上の増減により判断	効果		
効果 (R5とR4の指標値増減)	効果が上がった指標数	2指標		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	0指標				
	効果が下がった指標数	1指標				
	指標全体	効果が上がった		費用は下がった		
				費用の増減無し		
				費用が増加した	○	

4．次年度に向けた検討

（１）令和５年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

パンフレットを年度当初作成したが、年度途中で残部がなくなってしまった。

（２）上記反省点及び課題を踏まえた、令和６年度及び令和７年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☒ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
紙媒体だけではなく、デジタルパンフレットなど観光客のニーズにあったパンフレットにしていくことにより、コスト削減を図り、魅力的なパンフレットにする。	

事業名	観光推進事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs 該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1．基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算 科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	観光推進課		観光推進事業		款	7	新規or継続	継続事業
	係	観光推進係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	211	名称	根拠法令、条例等	事業 期間	目	4	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり			開始年度	H21	実施方法	直営
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり			終了年度		事業分類	その他内部事務事業
	施策	1	ひとを集める観光戦略の展開						

2．事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	観光推進基本計画に掲げるとおり、地域経済の活性化と活力にあふれた地域社会の創造を目指し、市を挙げて観光推進を図る。また、計画に沿った事業展開を実施するための調査・研究及び事業の全庁的な進捗管理を行う。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	観光客、外国人観光客に本市の魅力を知ってもらい、来訪、宿泊してもらおう。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		市の観光客入込数	千人	10,000	8,500	8,600	8,700	8,800
		市の観光客宿泊数	人	50,000	60,000	61,000	62,000	63,000

（3）目標値

3．前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R5年度に 行った主な活 動内容)	多言語看板を2か所設置した（宇津野洞窟、かたくりの里） 佐野市観光推進基本計画における事業等の進捗状況を全庁的に 調査した。	活動指標	単位	R3	R4	R5
		新規多言語看板設置箇所数	箇所	2	2	2
		事業費計	千円	223	370	978
		一般財源	千円	223	370	978
		特定財源（国・県・他）	千円			
		（うち受益者負担）	千円			

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	多言語看板を設置することで、市の観光客入込数が増加した。	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
		市の観光客入込数	千人	6,503	6,429	7,134	値が大きいほど良い	効果が上がった
		市の観光客宿泊数	人	40,914	56,943	64,290	値が大きいほど良い	効果が上がった

（4）事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

（5）費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）		費用が増加した	※ 1 0 万円以上の増減により判断	効果		
効果 (R5とR4の指標値増減)	効果が上がった指標数	2指標		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	0指標				
	効果が下がった指標数	0指標				
		指標全体	効果が上がった	費用	費用は下がった	
				費用の増減無し		
				費用が増加した	○	

4．次年度に向けた検討

（1）令和５年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

現在佐野市に設置している観光看板に対し、毎年改修する看板が少ない。今後はさらに促進することが望まれる。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和６年度及び令和７年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☐ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明

事業名	観光地域づくり法人支援事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当あり
		施策横断的な取組との関連性	SDGs 該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	観光推進課		観光地域づくり法人支援事業		款	7	新規or継続	継続事業
	係	観光推進係		業		項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	211	名称	根拠法令、条例等	事業期間	目	4	義務or任意	任意の事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり			開始年度	R2	実施方法	直営
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり			終了年度		事業分類	支援事業
	施策	1	ひとを集める観光戦略の展開						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	佐野市において観光庁の観光地域づくり法人（DMO）の考え方にに基づき、新たにDOMという手法により、民間目線でのマーケティングマネジメントを導入し「稼ぐ力」を引き出し、観光地経営を担う観光地域づくりを行う舵取り役になり、観光誘客の推進と地域の活性化を図る、法人の事業の柱である、①観光事業、②コンベンション事業、③物販事業等について、事業を安定的に行えるよう多様な関係者で組織する観光地域づくり協議会を運営する。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	本市の魅力を知ってもらい、来訪、宿泊してもらう。
-------------------------	--------------------------

(3) 目標値

効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
旅行消費額	円/人	10,000	11,000	11,300	11,600	11,900
市の観光宿泊数	人	50,000	60,000	61,000	62,000	63,000
市の観光客入込数	千人	10,000	8,500	8,600	8,700	8,800

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	・佐野市観光地域づくり候補法人支援補助金を交付。 ・佐野市観光地域づくり協議会への参画。
--------------------------	---

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動指標	単位	R3	R4	R5
観光地域づくり協議会開催数	回	1	3	2
事業費計	千円	7,900	10,021	9,383
一般財源	千円	7,900	21	383
特定財源（国・県・他）	千円		10,000	9,000
(うち受益者負担)	千円			

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	民間目線によるマーケティングマネジメントの導入のほか、新型コロナウイルス感染症が５類感染症に移行したことも影響し、観光入込客数及び宿泊者数ともに増加となった。
------------------	---

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
旅行消費額	円/人	10,087	12,972	16,105	値が大きいほど良い	効果が上がった
市の観光宿泊数	人	40,914	56,943	64,290	値が大きいほど良い	効果が上がった
市の観光客入込数	千人	6,503	6,429	7,134	値が大きいほど良い	効果が上がった

↓選択して下さい

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用が増加した
効果（R5とR4の指標値増減）	効果が上がった指標数 3指標
	効果は変わらない指標数 0指標
	効果が下がった指標数 0指標
	指標全体 効果が上がった

※ 10万円以上の増減により判断

効果			
	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
費用	費用は下がった		
	費用の増減無し		
	費用が増加した	○	

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和５年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

・国内観光客の旅行目的は多様化しており、従来の名所旧跡に加え、市街地、農山村等を回遊し、自ら体験し地域住民と交流する「コト消費」観光が増えている。観光環境はIT化も加わり急激に変化しており、即応しなければ「取り残された地域」になってしまう。 ・マーケティングを活用し、ターゲットを絞った観光企画の立案が必要。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和６年度及び令和７年度の取組

取組説明	
☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☐ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☒ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	民間目線でのマーケティングマネジメントを導入し「稼ぐ力」を引き出し、観光地経営を担う観光地域づくりを行う舵取り役になり、観光誘客の推進と地域の活性化を図るための組織基盤を構築する必要があり、引き続き支援を継続する。

事業名	全国へそのまち協議会参画事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1．基本情報

担当組織	部	観光文化スポーツ部			予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	観光推進課			全国へそのまち協議会参画事業		款	7	新規or継続	継続事業
	係	観光事業係			業		項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	211	名称		根拠法令、条例等		目	4	義務or任意	任意の事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり			事業期間	開始年度	H11	実施方法	直営
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり				終了年度		事業分類	参画事業
	施策	1	ひとを集める観光戦略の展開							

2．事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	全国のへそのまちを名乗る市町村により、自治体間の親善と交流、魅力ある地域づくりの推進に資することを目的として設立された全国へそのまち協議会は現在 9 の会員市町村から成る。会員として負担金を支出し、総会、幹事会、イベント等に参加することで参画市町村との交流及び地域の活性化を図る。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	加盟市町村間の連携・イベントの開催等により、へそのまちを周知し、日本国内の在住の方々に本市を知ってもらい、来訪、宿泊してもらう。
-------------------------	--

（3）目標値

効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
市の観光入込客数	千人	10,000	8,500	8,600	8,700	8,800
市の観光客宿泊数	人	50,000	60,000	61,000	62,000	63,000
広域での連携事業数	事業	16	17	17	18	18

3．前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R 5 年度に行った主な活動内容)	【市の活動】 負担金支出、総会（書面協議）、構成市町村主催観光物産展への特産品出品。 【協議会の活動】 総会、幹事会、加盟促進、観光物産展等の開催、災害時相互応援協定事業、情報発信
----------------------------	---

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動指標	単位	R3	R4	R5
会議開催回数	回	2	2	2
イベント開催回数	回	0	4	8
会議出席回数	回	0	2	2
事業費計	千円	75	10	20
一般財源	千円	75	10	20
特定財源（国・県・他）	千円			
（うち受益者負担）	千円			

（3）活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	加盟市町村間の連携・イベントの開催等により、へそのまちを周知し、日本国内の在住の方々に本市を知ってもらい、来訪、宿泊が増加した。
------------------	--

（4）事業効果を説明する数値データの推移

効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
市の観光入込客数	千人	6,503	6,429	7,134	値が大きいほど良い	効果が上がった
市の観光客宿泊数	人	401,914	56,943	64,290	値が大きいほど良い	効果が上がった
広域での連携事業数	事業	2	3	15	値が大きいほど良い	効果が上がった

↓選択して下さい

（5）費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用の増減無し
効果（R5とR4の指標値増減）	3指標
	0指標
	0指標
	指標全体
	効果が上がった

※ 1 0 万円以上の増減により判断

効果			
効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった	
費用は下がった			
費用の増減無し	○		
費用が増加した			

4．次年度に向けた検討

（1）令和 5 年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

協議会の事業内容がコロナ新型コロナウイルス感染症の影響で減ってしまった為、積極的な事業推進の提案をすることで事業増加を目指す。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和 6 年度及び令和 7 年度の取組

☒ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☐ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
市町村交流とまちづくりの推進を趣旨とする協議会のため、総合政策部局所管と打診をし、目的（対象・意図）の再設定をする必要がある。	

事業名	栃木県観光物産協会参画事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs 該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1．基本情報

担当組織	部	観光文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	観光推進課		栃木県観光物産協議会参画事業		款	7	新規or継続	継続事業
	係	観光推進係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	211	名称	根拠法令、条例等	目	4	義務or任意	任意の事業	
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	H19	実施方法	直営
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり		終了年度		事業分類	参画事業	
	施策	1	ひとを集める観光戦略の展開						

2．事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	県内の観光事業者や自治体で組織され、栃木県内の観光情報の収集・提供やPR事業を行っている栃木県観光物産協会に対して、会費として負担金を支出し会議やイベントに参加し、観光情報の収集発信を行っている。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	本市の観光情報の提供により、本市の魅力を知ってもらい来訪。宿泊してもらう。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		市の観光客入込数	千人	10,000	8,500	8,600	8,700	8,800
		広域での連携事業数	事業	16	17	17	18	18

（3）目標値

3．前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	【市の活動】負担金の支出。協会が発行する観光情報誌への情報提供。県物産協会HP「とちぎ旅ネット」に記事投稿。 【栃木県観光物産協会の活動】県内観光情報の収集・提供、PR事業の助成	活動指標	単位	R3	R4	R5
		会議等への出席回数	回	0	0	1
		情報提供回数	回	12	12	12
		加盟団体	団体	384	369	368
		事業費計	千円	30	30	30
		一般財源	千円	30	30	30
		特定財源（国・県・他）	千円			
		（うち受益者負担）	千円			

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	観光情報誌への情報提供やHPへの記事投稿により、本市への観光誘客が図られた。	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
		市の観光客入込数	千人	6,503	6,429	7,134	値が大きいほど良い	効果が上がった
		広域での連携事業数	事業	2	13	15	値が大きいほど良い	効果が上がった

（4）事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

（5）費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断		効果		
効果 (R5とR4の指標値増減)	効果が上がった指標数	2指標	費用	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	0指標		費用は下がった		
	効果が下がった指標数	0指標		費用の増減無し	○	
	指標全体	効果が上がった		費用が増加した		

4．次年度に向けた検討

（1）令和 5 年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

「とちぎ旅ネット」や「VISIT TOCHIGI」等の観光情報サイトの有効活用。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和 6 年度及び令和 7 年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☐ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☐ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
--	------

事業名	さの秀郷まつり開催支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs 該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算 科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	観光推進課		さの秀郷まつり開催支援事業		款	7	新規or継続	継続事業
	係	観光事業係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	211	名称	根拠法令、条例等	事業 期間	目	4	義務or任意	任意の事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり			開始年度	H5	実施方法	直営
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり			終了年度		事業分類	支援事業
	施策	1	ひとを集める観光戦略の展開						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	東国における武芸の祖として武士たちに崇められた弓術の達人・藤原秀郷を称えて開催される「さの秀郷まつり」を支援することにより、観光誘客を図る。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	市民の郷土愛醸成並びに市外からの観光誘客 (補助金対象団体) さの秀郷まつり運営委員会	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		まつり来観者	人	90,000	90,000	80,000	80,000	80,000

（3）目標値

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	①開催日 令和5年9月16日（土） ②開催場所 市役所周辺 ③内 容 プロジェクションマッピング、市民総おどり、みこし・おはやし巡行、ステージイベント 他 ④来 場 者 約80,000人 (市の活動) 運営委員会に補助金を交付する。 (事業費の内訳) 7, 0 0 0千円 (運営委員会の活動) 検討委員会、運営委員会、実行委員会の開催。 (実行委員会の活動) 協賛依頼、各種申請、広報宣伝、会場設営、当日の各種イベント運営、会場清掃、片付け等の実施。	活動指標	単位	R3	R4	R5
		会議開催回数	回	3	8	10
		現場作業	回	0	0	60
		事業費計	千円	0	0	7,000
		一般財源	千円			
		特定財源（国・県・他）	千円			7,000
		(うち受益者負担)	千円			

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、R3年度及びR4年度は祭りの開催を中止したが、R5年度は4年ぶりに開催され、多くの来観者がにぎわいを見せると同時に観光誘客にも繋がった。	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
		まつり来観者	人	0	0	80,000	値が大きいほど良い	効果が上がった

（4）事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

（5）費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）			※ 1 0 万円以上の増減により判断	効果		
効果 (R5とR4の指標値増減)	効果が上がった指標数	1指標		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	0指標				
	効果が下がった指標数	0指標				
指標全体		効果が上がった		費用	費用は下がった	
					費用の増減無し	
					費用が増加した	○

4. 次年度に向けた検討

（1）令和５年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

事務局に市民団体を入れる。 新規イベントの開催、既存イベントのブラッシュアップ。 他祭り実行委員の実行部隊との協働。 協賛してもらうための新たなアイデア。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和６年度及び令和７年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） ☐ 事業効果を上げるための事務改善の検討 ☐ 事業費の見直し検討 ☒ 業務時間効率化のための事務改善の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
	事務局に市民団体を入れる。